

「頭痛の起こる場所によるレメディ選択の違いを実感したケース」

片井 直子

【ケース① 11歳 女性 、 ケース② 13歳 男性 、 ケース③ 42歳女性】

【主訴】 頭痛

【具体的内容】

ケース① 頭が痛いと言えあり。アコナイトを2回とって様子を見たが改善せず、激しい痛みとの症状を訴え続ける。頭のどこが痛いかと聞いたら右側が痛いとのこと。

ケース② 頭が痛いと言えがあり、どこが痛いかと聞くと頭頂部の一点が痛いとのこと。

ケース③ 朝起きた時から頭痛がひどく何をやる気にもならない。特に後頭部ににぶい痛みがあったため起き上がるのも辛いほど。

【レメディ選択】

ケース① Bry. 30C (2023年7月3日)

ケース② Kali-bi. 30C (2023年10月14日)

ケース③ Nat-m. 30C, Phos30C (2023年12月6日)

【選択の根拠】

講義で習った事や、「ホメオパシー in Japan」レパートリー、マテリアメディカを参考にし、手元にあるキットから以下のレメディを処方。

- ① Bry.=講義の中で学んだ、頭痛が起こる場所の図において右側で割れるような痛みであるという症状と似ていたこと。また、マテリアメディカの中にあった、「頭痛」「午後9時」というキーワードとも合っていたことから選択。
- ② Kali-bi=講義の中で学んだ、頭痛が起こる場所の図において頭頂部辺り、また「一点をつくような」と説明があったことから選択。
- ③ Nat-m=講義の中で学んだ、頭痛が起こる場所の図において、後頭部と前頭部一帯に起こる特徴が一致していたため。また、前日の寝る前にテレビ番組を見てボロボロ泣いてそのまま寝たので、Nat-mの「悲しみ」などのキーワードが合うと思ったから。また、後頭部の痛みがひいた後も目の奥の痛みがまだ残っているような感じだったので→Phos=講義の中の図と「眼精疲労からくる」という特徴に合っていたことから選択。

【経過】

- ① Acon. をとっても何も変化がなかったが、Bry. をとったところ、頭が軽くなってきたとのこと。さらに一時間後にリピートするとそのまま寝てしまい、翌朝には全快していた。
- ② Kali-bi を一粒とったことで症状が改善し、以後は何も言わなくなった。
- ③ Nat-m をとってしばらくすると、さっきより頭が軽いような気がしてきた。午後にもう一度リピート。後頭部の頭痛は気にならなくなったが、目の奥が痛いような感覚がまだ残っていたので、夜に Phos. をとり、一晩寝ると全快していた。

【考察】

これまでの経験から、頭痛にヒットするレメディーを選ぶのは非常に難しいと思っていたが、今回講義の中で学んだ、頭痛の起こる位置によるレメディー選択を実践してみたところ、驚くほど効果が高くびっくりした。頭痛とは一言で言っても、その要因は様々で、特に痛みの起こる部位にまず着目して、その後マテリアメディカなどで、イーチオロジーなどもふまえてレメディー選択をしていくことの有効性を大いに実感できた。